

(別紙様式2)

普及指導員調査研究報告書

課題名：リンドウ新規栽培者の確保、既存栽培者の面積拡大による産地規模拡大

周南農林事務所農業部 担当者氏名：石津恭子 山中和弘

<活動事例の要旨>

リンドウの面積拡大のため、体験講座による新規栽培者の確保を行った。栽培期間の長期化のために、極早生品種の「西京の初夏」実証ほを設置し作付け推進を行った。

1 普及活動の課題・目標

周南地域では需要に応える品目としてリンドウの推進を行ってきた。

リンドウは中山間地域における、戦略作物として生産拡大してきたが、盆前後の市場出荷量が不足しており面積拡大が求められている。このため、体験講座等を通じて新規栽培者を確保する。

また栽培期間の長期化を図るため、極早生品種「西京の初夏」の実証圃を設置し栽培推進を行い、既存栽培者の面積拡大を推進する。

2 普及活動の内容

(1) 新規栽培者の確保

- ① リンドウ体験講座 (JA周南花き部会リンドウ生産グループ主催) の開催支援
 - ・体験講座説明会 3月4日 講座生5名 グループ員2名
リンドウ栽培の概要、特性、適地について説明実施した。
 - ・定植体験講座 4月26日 講座生4名 グループ員6名
リンドウ定植を実施 今後の管理について説明
会員のほ場を使い、今後の生育も確認することとした。
 - ・株整理体験講座 6月3日 講座生3名 グループ員3名
2年生株からの芽整理を実施した。県オリジナル品種の「西京の初夏」について説明した。
 - ・品種比較体験講座 9月20日 講座生1名 グループ員5名
生産者ほ場にて品種特性確認を行った。リンドウ特性表を作成した。
病害虫、生理障害の発生状況を確認しリンドウグループとしての推進品種について、実際の作業時間や労働競合について検討を行った。
 - ・収穫調整体験 10月21日 1名 (講座生以外1名)
収穫調整作業について、作業体験を行った。
市場出荷及び直売向け調整作業を行った。



② 栽培開始に向けた支援

- ・昨年講座卒業生に対する個別指導 2名
現地指導 6月 栽培確認 9月 施肥指導
- ・新規作付けほ場検討
次年度植えつけほ場について土壌分析を実施

(2) 「西京の初夏」実証ほの設置

設置期間 平成25年4月～平成26年3月
設置場所 周南市須々万 周南市大向
調査内容 生育調査 (草丈、茎数) 出荷時期

3 普及活動の成果

(1) 新規栽培者の確保

① 新規栽培者の確保

リンドウ体験講座 修了式 12月12日

講座生中1名が栽培を開始することになり、個別作付け準備指導を実施した。

② 既存栽培者の面積拡大

「西京の初夏」平成26年作付け予定

新規1名 面積拡大4名 計 5名 3,600本 約5a

(2) 「西京の初夏」実証ほの調査結果

① 生育調査

・定植1年目ほ場 周南市須々万 標高363m

場所	7月24日		8月29日		10月11日	
	草丈	茎数	草丈	茎数	草丈	茎数
須々万	29.7cm	0本	35.9cm	6.8本	41.4cm	4.9本



・定植2年目ほ場 周南市大向 標高350m

場所	4月15日		5月10日		6月6日	
	草丈	茎数	草丈	茎数	草丈	茎数
大向	33.5cm	6.8本	53.7cm	6.8本	71.7cm	7.4本



② 出荷状況

出荷時期 平成24年6月13日～7月5日

市場出荷本数 1,330本 株あたり出荷本数2.6本 平均単価68円

4 今後の普及活動に向けて

リンドウ体験講座を通して、リンドウ栽培へ誘導を行ってきた。リンドウ栽培の弱点である、初年度目の管理について理解を深めた。

リンドウは初年目に収穫がなく栽培が粗放的になりやすく、結果欠株が発生してしまう。このため、栽培経験年数の浅い栽培者は体験講座へ参加を誘導し優良ほ場の状況と自身のほ場を確認させる必要がある。

「西京の初夏」については、高温時にも生育が良く栽培しやすい品種である。ただし、極早生品種のため、そのほかの栽培品種と作業時期が異なる。

既存リンドウ品種がある場合は、追肥のタイミングを逃している場合がある。緩効性肥料等の利用を検討し、生育に合わせて作業体系を確立する必要がある。

栽培上の課題として、高芽現象について、堆肥被覆の対策を実施した効果確認を行う必要がある。